

特251

425

本

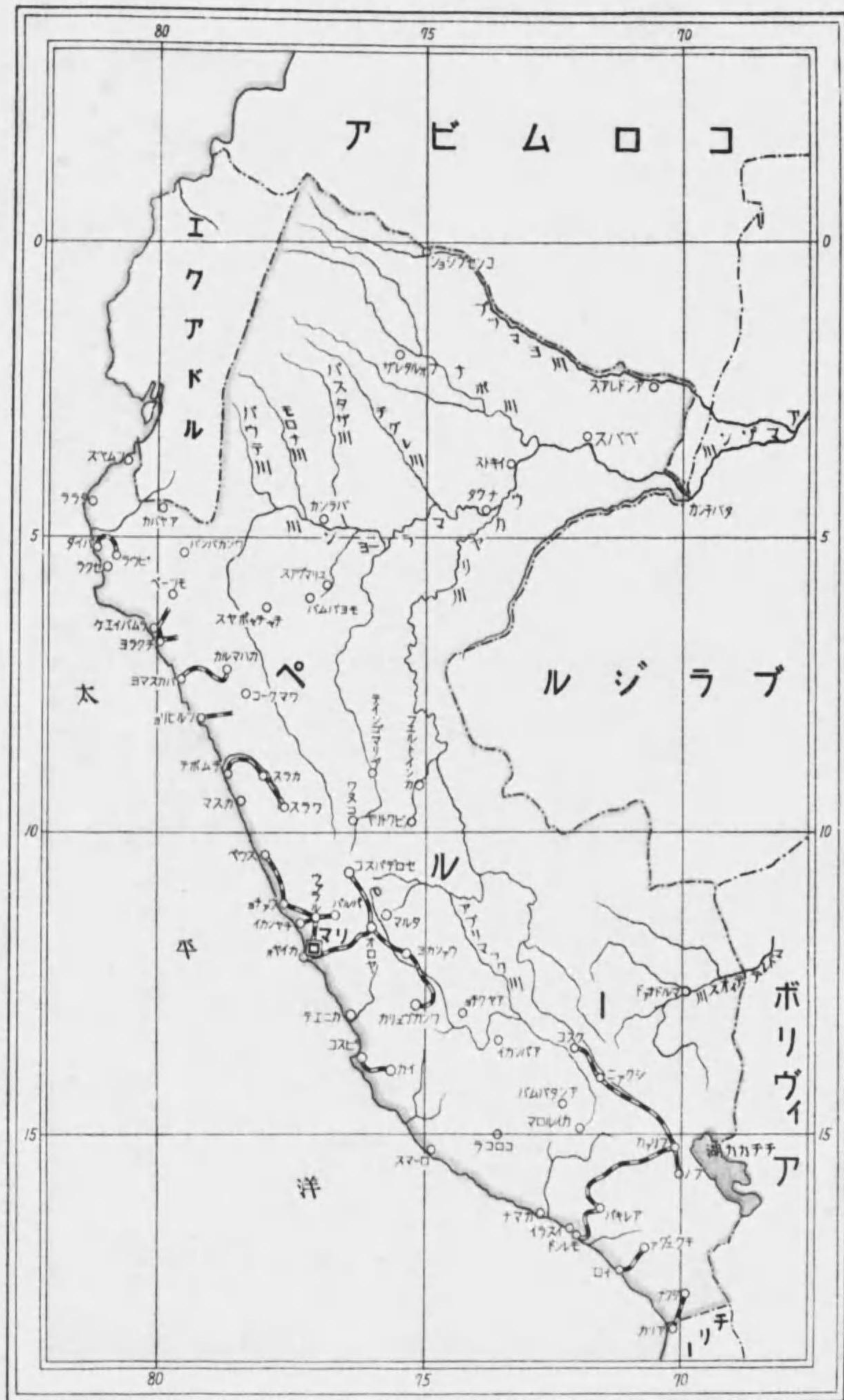
ペル一の概要

海外興業株式会社
秘露棉花株式会社

始



38
12



此の小冊子は近く訪日秘露國經濟文化使節の本邦來朝を機會として同國事情の概要並に我國との關係に就いて極めて簡易に略述したもので若し御參考の一端ともならば幸甚に存じます

昭和十三年八月

海外興業株式會社
秘露棉花株式會社

ペルーの概要

略史

歐人の新大陸発見前既に第十一世紀の頃、マンコ・カバツクが今のペルーを中心にインカ帝國を建設して、クスコに都を築め、全人口約一千萬、富強文化の國として榮えてゐたのであつたが、一五三三年西班牙人ピサロが之を征服して、西班牙の統治するところとなり、其の後一八二一年、ペルーは他の南米諸國の獨立と前後して獨立の旗幟を翻し遂に其の目的を達し、共和國となつて今日に及んでゐる。

同國は中央集權制の單一共和國で、全國を二十三州に分ち、各州に大統領の任命する知事が置かれて地方行政を司つてゐる。國內にはインカ帝國の遺跡が到る處にあつて、考古學上貴重な材料を提供してゐる。



地理



南アメリカの西海岸に位し、總面積百二十五萬平方軒、日本全版圖の約二倍に當る。著しい特徴はアンデス山脈が國內を南北に貫通してゐること、フンボルト寒流が太平洋岸を北上して洗つてゐることである。アンデスの山岳地帯はペルーの骨格をなし、大陸を横斷して東方から吹いて來る濕氣を含んだ風は同連山に遮られて、之が爲め山脈の東側は多雨の鬱蒼たる大森林をなし、有名なアマゾン河はアンデス山中に其の水源を發して、此の森林地帯を通り、ブラジルを経て大西洋に注いでゐる。西側の海岸地帯は反對に殆ど降雨なく、唯濃霧に閉さるゝ程度であるが、アンデス山より流下する幾多の溪流を利用して土地を灌漑し、豐沃な流

域を諸所に現出してゐる。ペルーは其の位置が赤道に甚だ接近してゐるに拘はらず、熱帶的濕潤の氣候はアマゾン上流の森林地帯に見るのみで、山岳地帯は寒冷であり、海岸地帯はフンホルト寒流の影響を受けて氣候頗る溫和で、一年を通じ寒暖の差が甚だしい。首府リマの溫度は冬季最低華氏四十六度、夏季最高華氏七十二度、年平均六十六度であつて、之を同緯度にあるブラジル國バイヤ市の平均溫度七十六度に比較して十度の差が見られる。

住民

國勢調査が行はれてゐない爲め、正確な人口は不明であるが、推定人口約七百萬、總數の約七割が昔インカ帝國を建設したケチュア族、アイマラ族等のインディアンで、主に山岳及び森林地帯に住み、其の性質は溫和素朴である。十六世紀の始めに来た西班牙人は之と雜婚し、更に十六世紀末から黑人を輸入し、十八世紀中葉には約十萬人の支那人を入れたのであるが、土民と西班牙人との雜種は總數の約二割、白人支配階級の數は凡そ五十萬人である。尤も白人種中にも從來の西班牙系の外に伊・佛・獨・英各國人間に雜婚が行はれ、現在國民の中樞をなす白人階級は此の種に屬するものが多い。支那人の數は七千と言はれるが、實際は土民との雜婚に依つて其の血統を受くる雜種が約十萬人存すると評されてゐる。日本人の在留數は二萬三千人で、南米中ブラジルに次いでゐる。

風俗

國語は西班牙語で、ブラジル以外の南米諸國は何れも西班牙語を國語とするが、中でもペルー人は、ペルーが南米に於て最後迄西班牙副王の駐在地であつただけに、他の諸國人よりも比較的正確な西班牙語を話すと言はれる。一九三三年の憲法で信教の自由が認められたが、國教はカトリック教で其の勢力は大きい。首都リマ市にあるサンマルコス大學は一五五一年に創立されたもので、南米最古の大學としてペルー人の誇りの一となつてゐるが、國民の過半は土民である爲め、一般の教育は普及してゐない。土民は

極めて淳朴で、簡易の生活を営み、其の風俗にはインカ帝國時代の遺習を傳へてゐるものが多い。白人階級の風俗習慣は南歐諸國と大差なく、幾分保守的である。

交通

國內總面積の二五%が山岳地帯で、然もそれが國內中央部を縦走してゐる爲め、運輸交通の發達を妨からず妨げてゐるが、現在の鐵道總延長三千二百軒、道路總延長二萬一千軒である。首府リマ市より高原地帯のオロヤに通ずるアンデス横斷鐵道の難工事は既に一八九三年見事成功し、其の最高點は海拔四七八六米、世界の鐵道中最高所を通り、富士山頂よりも更に一千米以上も高い。ペルーは豊富な天然資源を包蔵しながら、其の開發が遅れてゐるのは、人口、資本及び道路の不足に因るのであつて、政府は最近同國經濟の發展策として、一九三七年以降道路三箇年計畫を實施し、大きな自然的障礙と困難を排して、日下銳意道路の改修及び築造に當つてゐる。又最近國內航空路が大いに發達し、北は中米及びカリビヤ海を経て米國に、南はチリ、アルゼンチンに連絡されてゐる。日本と南米西岸を連絡する航路には日本郵船の南米西岸線並に川崎汽船の南米線の兩線があり、日本からペルー迄約一ヶ月半を要する。最捷徑は日本から海路北米に渡り、それよりシカゴ經由の航空路に依れば二十日位で達することが出来、又紐育からバナマ經由の船便に依れば約一ヶ月で行ける。

産業

ペルーは原料生産國で、農業、鑛業及び牧畜業を主要産業とし、殊に農業はペルー産業の中樞である。此の國の農産物を代表するものは棉花と砂糖である。近年棉花の生産が激増し、其の總價格は砂糖を遙かに凌ぐに至つた。棉花は南部海岸の溪谷及び一部内地にも栽培せられ、耕作面積十六萬五千ヘクタール(一ヘクタールは我々が一町二丁五分)、年産額約三十五萬俵、其の九割は輸出される(一九三六年度輸出 英四二%、獨三〇%、日一五%)。ペルーは世界棉花生産高に於ては第七位であるが、棉花の品質の點では世界第二に位し、

全産額の八割を占むるタンギス棉は品質極めて優良で、世界市場に於て埃及棉花に亞ぐ聲價を有してゐる。日下ペルーで棉花耕作に従事してゐる邦人は二千家族を超え、其の生産高はペルーの棉花全生産の約二割を占め、我國へは昭和十年三萬七千俵、十一年四萬九千俵が輸入されたが、十二年は輸入制限の爲め一萬四千俵に減少した。砂糖は海岸地方に耕作せられ、面積六萬二千ヘクタール、年産約四十萬噸、内八割は輸出される。明治三十二年より近年に至る迄、契約移民として邦人がペルーに渡航したのは、悉く甘蔗栽培に従事するを目的としたのであつて、ペルー糖業が最近五十年の間に顯著な發達を遂げたことは、日本人の力に負ふところが尠くない。尙農産物としては、小麦が高原地帯に栽培され、米作も盛に行はれ、その他葡萄、煙草、珈琲、 카카오、大麥、燕麥、玉蜀黍等を産出する。林業では、天然護謨が主で、アマゾンの流域は其の豊富な産出地をなし、政府が大に奨励してゐるが、今日では栽培護謨に壓倒されて振はない。ココも生産され、製品コカインは日本へも輸出されてゐる。

昔西班牙が困苦を冒し、ペルー遠征を企てたのは、金銀の獲得を目的とした程、ペルーは鑛産に富み、金、銀、銅、鉛、亜鉛、ウアナデニウム、石炭、石油等を産し、一九三六年の全鑛産額二億六千四百萬ソール(貨約八十五錢)、特に銅及び石油が其の中心をなしてゐる。ペルー鑛業の世界的地位は、ウアナデニウムが世界第一位、銀が第三位、銅が第七位、石油が第十位である。但し、是等の鑛山經營は、大部分外國資本の背景を有し、英、米、伊が代表的である。沿岸に散在する小島に産する鳥糞グアノは、一九〇九年以來政府の專賣となり、平均年産十四萬噸、政府歳入の重要部分を占めてゐる。

農業、鑛業に次ぐものは畜産で、畜類頭數一千一百二十萬頭、中部以北の高原地帯では羊、牛等が飼育され、羊が最も多く、其の數約六百萬頭、牛は約百八十五萬頭、其他に山羊六十五萬頭、馬四十萬頭を算し、南部ではアルパカ、リヤマ等が飼育され、其の數各々六十五萬頭である。羊毛は棉花、砂糖と共に重要輸出品であるが、輸出高はアルパカ、リヤマ等を含めて一九三六年五、九七七噸を示してゐる。

工業は前記の原始産業に比しては其の發達が遅れてゐるが、最近纖維工業を始め化學工業、金屬工業、セメント製造等が漸次勃興してゐる。

貿易

一九三七年度の輸出總額は三億六千五百萬ソール、輸入總額は二億三千五百萬ソールである。輸出の三分の一は石油と其の副産物で、其他棉花、砂糖、銅、羊毛等が主要なものである。輸入の主なるものは機械・車輛類、食料品、銅・鐵・アルミニウム、電氣機械器具、化學藥品、藥劑類である。英・米・獨が輸出入の三大顧客であるが、一九三七年度ペルーの輸入上日本は第五位を占めてゐる。

日本との貿易は通商條約締結以來約四十年の歴史を有してゐるが、邦品がペルー市場に相當活躍するに至つたのは、世界大戰中及びそれ以後であつて、更に昭和七、八年頃より日本の綿布及綿製品は英國品を壓倒して大いに進出したが、其の後ペルーに於て本邦綿布、綿製品に割當制を布くに至り、之が對策として我方のペルー綿買付が注視されてゐる。従來ペルー棉は他に比し高價である爲め、我國では殆ど使用されなかつたが、最近其の特殊性を活かして使用する方法が發見され、其の輸入は著しく増加した。昭和十二年度に於ける兩國間の貿易に於いて、日本からの輸出は六百三十四萬圓(前年は六百十六萬圓)、日本への輸入は六百二十八萬圓(前年は一千三百萬圓)である。日本からの輸出の主なるものは綿糸布、絹、人絹布、雜貨類其他で、日本への輸入品は棉花が其の八、九割を占め、其他に珈琲、羊毛、鑛産物等がある。棉花の輸入は、昭和十一年度の一千二百六十五萬圓に對し、十二年度は四百七十萬圓に減少したが、之は非常時貿易管理の爲め已むを得ない理由によるものである。

在留邦人の狀況

ペルーは邦人海外發展地中でも極めて古い歴史を有し、明治二十二年、故高橋是清翁がペルーの銀山經營を計畫して、自ら同地へ赴いたことは、我が海外企業史の劈頭を彩る一挿話であるが、それより十年後第一回邦人移民が同國に渡航してからでも三十八年を経過して、在留日本人の數は今日二萬三千を算へ、同胞の經濟的發展に於てはブラジルに亞いであるが、特に商業的に發展し

てゐる點では南米第一である。

明治三十二年四月、初めて本邦移民七百九十名が甘蔗耕地に就働の目的でカイヤオ港に上陸したのであるが、此の一行こそ我が南米移民の嚆矢をなせるもので、日本人のブラジル移住に先立つこと九年である。其の後大正十二年、ベルーの國內労働者の増加に依り耕地に於ける邦人契約移民の需要止み事實上邦人契約移民の入國が杜絶する迄、一萬七千餘名の邦人が入國した。其の中約四百名が護謨採取の爲め森林地帯に入つた外は、概ね海岸地帯の甘蔗耕地に傭はれたのであつて、同國糖業の發展に日本人の寄與せるところ多大であることは既に記した通りである。是等ベルー移民取扱の移民會社としては、初め森岡移民會社其他二三のものがあつたが、大正六年海外興業會社が創立せられた後は同社の一手に取扱ふところとなつた。斯くの如く、日本人は最初同國の砂糖耕地の勞働に従事したのであるが、其の後糖價の世界的下落に依つて糖業界が不振に陥つたのと、一方ベルーの産業上砂糖と競争の地位にあつた棉花がタンギス棉花の出現に依つて著しい進歩を遂げた爲め、邦人の棉花栽培に従事するものが次第に多くなり、現在では同國農業界に於て邦人の活躍の顯著なるものは此の棉花栽培事業である。リマ州はイカ州と共に同國に於て棉作の最も盛な地方であるが、今日ベルー在留邦人農業者の九割はリマ州にあり、其の八割が棉作に従事してゐる。其の栽培面積一萬五千町歩、同國棉花栽培面積の一刻に當り、生産年額七萬俵、價格約一千五百萬圓、ベルーの棉花全生産の約二割を占め、優秀な成績を擧げてゐる。邦人經營の大規模なる棉花栽培事業は主としてリマ州のチャンカイ地方に行はれ、秘露棉花株式會社のバルバ耕地と、レツテス農事株式會社のレツテス耕地と、岡田幾松、元西初太郎兩氏共同經營の諸耕地とがある。

棉花に次いで邦人の栽培してゐるもので近年重要性を増したものは珈琲である。珈琲はベルーでは主として森林地帯に旺に栽培され、概ねアラビヤ種で甘美な芳香を有し、歐米で賞味されてゐるが、近來日本人の秘露拓殖組合經營のフニサス植民地に於ても極めて優秀な珈琲を産出するに至り、各方面の注意を惹いてゐる。

邦人の栽培作物は上記棉花、珈琲の外は、海岸地帯では馬鈴薯、玉蜀黍等があり、森林地帯では玉蜀黍、ユカ薯、果樹等を栽培してゐるが、是等は副業的、間作的に行はれてゐるものであつて、ベルー在留邦人農作物の年生産高一千六百萬圓の内九割以上は

棉花に依つて占められてゐる。

邦人の奥地森林地帯に入るものは未だ甚だ稀であるが、最近フニサス植民地が好成績を擧げつゝあり、今後は同地帯に向つて邦人の進出が豫想されてゐる。尤も、森林地帯に於ける邦人の事業は決して新しいものでなく、古い活躍の歴史を有するが、同地帯に廣大な土地を有するものに星製藥會社のパンバヤク耕地及びツルマヨ耕地がある。前者は面積三百町歩のヨカ樹耕地であるが、後者は其の面積三十萬町歩に及び、未だ原始林の儘殘されて居り、目下諸般の折衝が行はれてゐる。

上述の如く、邦人はベルー農業に對し尠からぬ貢獻をしてゐるが、今日同國在留邦人總數二萬三千人中、農業に従事するものは其の約三割であつて、其の他はリマ、カイヤオ等の都市に集中して、日用品雜貨商、理髮、カフェ、自動車工業等各種の業務に従事して、非常な發展を遂げつゝあり、就中邦人小賣商の網は全國に張られ、何れも目拔の街に軒を列ねて、外國人商店に比し遜色なき堂々たる店舗を經營し、商業界に隠然たる一大勢力を築き上げてゐる。又日本人は工業方面にも發展し、自動車車體、電機具、帽子製造、護謨工業等は著名であつて、同國の國産振興上大いに寄與してゐる。是等の邦人商工業者も其の初めは何れも裸一貫の契約移民から叩き上げた人々であつて、其の間には二十年、三十年の貴い奮闘史が織込まれてゐるのである。今日では既に數多の成功者を輩出して、日本への送金高の如き年々三百萬圓を下らないと見られる。

從來ベルーでは、日本人が夥しく都市に集中し下層階級の職を奪ふとの理由で、邦人の排斥が行はれた。前に述べた秘露拓殖組合經營のフニサス植民地は、此の事情に鑑みて、邦人の都市集中を緩和し同時に邦人發展上局面の轉換を圖らんが爲め、昭和六年在リマ秘露中央日本人會が主となつて、拓務省の補助に依り、資本金五萬ソールを以て組合を組織し、奥地森林地帯の英國資本團所有地内に約一千ヘクタールの土地を購入し、昭和六年六月より日本人の入植を開始したものである。幸に近年は日本人の農業に轉ずるものが漸増しつゝあるのは慶ぶべきことである。秘露中央日本人會は海外にある邦人諸團體中最も有力なるものの一つであるが、同會はベルーの排日的空氣を除去する爲め非常な努力を續けてゐる。右のフニサス植民地經營の如き其の顯著なるものであるが、尙同會は一九二二年のベルー獨立百年祭を祝する爲め、約十萬圓を醸出して、ベルーの始祖マンコ・カバツクの銅像を建設

し、之を首都リマ市に贈つた事は在留邦人の永く誇りとする所である。同會は又昭和十一年リマ市の公園に六萬圓を費して南米隨一の水泳プールを建設寄贈した。

大正十二年本邦契約移民の渡航が杜絶した事は前述の通りで、其の後は少數の呼寄移民のみ渡航を許されてゐるのであるが、目下同國に於ける我が官民が協力して其の緩和策に就き大いに骨折つてゐるから、他日再び我が南米移民の發祥地としての同國へ移民を送り出し得る機運も開かれる事と期待される。

海外興業株式會社

海外興業株式會社は大正六年、世界大戰後に來るべき世界の新情勢に對處して、我が民族海外發展の途を開かんが爲め、政府の勸奨と賛旋に基き、當時分立せる諸移民會社を合同して設立された本邦唯一の移民取扱機關であつて、ペルー移民事業も亦同社に統一されてゐる。同社は大阪商船、東洋拓殖、日本郵船三社を三大株主とし、ペルーの外ブラジル、比律賓、南洋諸島、濠洲其他海外各地に進出する移殖民を取扱ふと共に、海外に於ける移住地、農場、工場の經營、海外事業團體に對する投資並に金融、及び貿易等の諸事業を行ひ、ペルーに於てはリマ市に出張所を置き、此の外ブラジルに支店其の他の業務機關を、神戸市に出張所を、内地各府縣及び海外諸地に外務省公認業務代理人を配置してゐる。

秘露棉花株式會社

ペルーの海岸地帯は土壤氣候共に棉花の栽培に適し、其の棉花は優良特殊棉として世界に盛名を有し、世界大戰後は殊に顯著な發達を遂げ、外國人にして同國棉花事業の前途に嚆望し大規模の經營を試みんとするものが尠くなかつた。之に反し邦人在留數は大正末年頃既に一萬人を超えたるに拘はらず、未だ二三小規模の栽培をなすものがあるのみで、大多數は外人耕地の小作人として勞働するに過ぎない状態であつた。右は在留邦人に資本的後援なきに起因するものであつて、ペルーに於る棉花事業の有望なるを

認めたる海外興業株式會社は、こゝに南米西海岸に邦人企業の第一歩を印する目的を以て、財界有力者の賛同を得て、大正十五年六月資本金壹百萬圓を以て秘露棉花株式會社を創立し、斯くて秘露棉花會社はリマ市の北方百軒の地點にあるバルバ耕地一千五百町歩に於て棉花の栽培に着手したが、業績頗る順調で累年其の收穫を増加し、又多額の本邦輸入を爲してゐるが、同社の大株主としては海外興業會社の外、野村合名會社、日本棉花會社其の他の有力者を網羅してゐる。尙昭和九年、別に商事部を開設して、南米市場への各種本邦製品の進出を計ると共に、主として又ペルーより國防資材、工業原料等の本邦輸入を營み、良好なる業績を擧げてゐる。

同社創立當時邦人の棉作地は僅かに二千餘町歩に過ぎなかつたが、邦人は同社の創立に啓發され、之を動機として棉作投資に向ひ、現在では邦人棉作地は一萬五千町歩に上る盛況を呈するに至つた事は、同社所期の目的の一端を達成せるものと言ふべきである。(秘露棉花株式會社本社 大阪市北區宗是町一大阪ビル内、支店 ペルー國リマ市、出張所 東京市丸ノ内三ノ六海外興業株式會社内)

昭和十三年九月十五日印刷
昭和十三年九月十五日發行

〔非賣品〕

編輯者兼
印刷人
印刷所

東京市麴町區九ノ内三丁目六番地
海外興業株式會社
濱野秀雄
東京市麴町區麴町五丁目二番地
杉田彌太郎
東京市麴町區麴町五丁目二番地
杉田屋印刷所

發行所

東京市麴町區九ノ内三丁目六番地
海外興業株式會社
大阪府北區宗是町一番地大阪ビル内
秘露棉花株式會社

終

4
0